

## 事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和5年3月31日

事業所名 放課後デイサービスかしのき教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	個別支援のためのスペースを区切っている	
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%	加配まで取れている	児童の来所状況を見て増員も検討
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	75%	25%	個別空間は完全に区切っているが、児童の希望に応じてフロアの使用もしている	エレベーターフロアまでに階段があるが、下の駐車場より階段を経由せず入れることを周知していく
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100%	0%	スタッフの出勤時及び退勤時清掃の時間を設けている	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%	モニタリング会議として実施。全スタッフが参加。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	全保護者へ書面にて配布し、ご協力をお願いしている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	ホームページにて公開、及びそのことについて保護者の皆様へLINEにて告知している	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0%	100%		第三者評価に向けて外部事業者の選定を検討していく
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	事業所内研修を月1回開催するとともに、市や他事業所主催の研修に積極参加を推奨している	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100%	0%	保護者と1時間程度お話をする機会を持ちつつ、子どもたちに必要な支援をスタッフ全員で協議している	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	75%	25%	アセスメントシートなど全員共通の書式を利用	評価の仕方など統一していく必要がある
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100%	0%	支援項目を記入する欄を個別支援計画書に設け、適切に表現している。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%	0%	ケース会議でも振り返りを行い、スタッフで共通認識を持てるようにしている	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	スタッフ全員で会議を行い指導内容は決定している	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	スタッフがローテーションで入ることにより、必要な支援のアプローチを多様化出来ている	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成している	50%	50%	基本的には個別支援をメインにしているが、時折児童同士の関わりを持てるようにもしている	今後の支援において児童間の関わりが持てるようなプログラムも検討していきたい

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	児童が来るまでの間に毎日ケース会議を行っている	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	早急に対応や検討が必要な事項については適宜管理者を中心に報連相が出来るよう配慮している	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	授業内容についてまとめる書類及びPC上での記録の整備をしている	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	必要に応じて変更を検討している。	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	現状では管理者のみが出席している	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	100%	0%	必要に応じて市の機関や他事業所との連携は図っている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	0%	100%		現状必要性のある児童はいない
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	0%	100%		現状必要性のある児童はいない
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	0%	100%	保護者の方には出来ることは告知している。	現状保護者の方より申し出があることはなかった
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	25%	75%		今後進学相談などの際に小学校との情報交換も検討した声掛けを行っていく
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	50%	50%	事業所交流会などには必ず参加し、情報共有を行っている。	参加するスタッフが固定しているため、広く参加できるような態勢を整えていく
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	0%	100%		かしのき教室主催のイベントなどを通じて一般児童を招くことも検討していく
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	0%	100%		会議について開催時期などを調べ参加を検討していく
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	LINEや連絡帳を通じて保護者の方へ支援内容や様子をお伝えしている	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	75%	25%	モニタリング時にお話を聞きつつアドバイスという形では対応している	ペアレントトレーニングを出来るスタッフを育成していくことを検討する	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	契約開始時に必ず説明のお時間を頂いている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100%	0%	個別支援計画書の原案を立てたうえで保護者の方へ説明し、訂正なども行っている	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	LINEを通じてお話を伺ったり、お電話での対応もしている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0%	100%		希望されていない保護者も多い中でどのような形が良いか検討していく
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	相談についてはお会いしたたびにいつでもお受けすることを口頭にてお伝えしている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	50%	50%	行事があるときなどは告知文章の形でお伝えしている	かしのきでの支援をお伝え出来る形での広報誌の必要性などは検討していく
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	100%	0%	年1回研修にて個人情報の取り扱いについて取り上げている	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	必要性に応じてフリガナなど是对応している	点字など幅広い方々に配慮した資料作りを進めていく
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	25%	75%	講演会などを開いた際には地域の方々に参加いただく機会もある	行事や子どもたちが楽しめるもので地域と連携できるものを模索していく
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	100%	0%	避難訓練と、事前にマニュアルについて全員で確認している。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	避難訓練と、事前にマニュアルについて全員で確認している。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	100%	0%	連絡帳を通じて把握している	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	0%	100%		飲食は水分以外は禁止。水分も持ってきていただいている
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	作成しており、年1回振り返る機会を作っている	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	年1～2回虐待防止研修及び委員会の開催をしている	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	100%	0%	虐待防止研修と共に身体拘束についても研修を行っている	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。